

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 さくら)

事業所番号	O671600260		
法人名	社会福祉法人睦会		
事業所名	ラ・フォーレ天童グループホーム		
所在地	山形県天童市大字道満176-1		
自己評価作成日	平成 23 年 6 月 30 日	開設年月日	平成 13 年 4 月 1 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月の行事等の写真を、よく見える場所に定期的に掲示し、生活感・季節感を感じていただけるような環境作りをしている。また、前の出来事を思い出していただく機会にもなっている。利用者が生活の中で自己決定出来るように、選択する機会を作っている。昼食前に食堂にいる利用者に対して、嚥下機能低下防止・筋力低下防止を目的とした体操を取り入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

アセスメントやモニタリング、普段のケアの中から利用者を理解し、家族の意見や利用者の暮らしの意向や能力を踏まえ、ケア担当者による計画を職員全体の意見を含めながら利用者の状態に応じた計画を作成している。管理者は人材育成に重きを置いて様々な研修に職員を派遣するとともに、伝達研修を通じて職員各々の力量のアップを図りサービスの向上を目指している。管理者及び職員は、利用者及び家族との信頼関係の構築を目指し、年2回の家族会や様々な家族と接する機会を大切にし、意見や要望をしやすい環境作り而努力している。一昨年よりセラピー犬を飼い、癒しの時間と安心感が生まれ高齢者のストレスや孤独感を和らげる効果があると言われていることから今後の成果に期待したい。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市桜町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成23年 8月 1日	評価結果決定日	平成23年 8月 12日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所の見える場所に理念を掲示し職員全員周知すると共に、実践につなげられるようにしている。	理念は見やすい場所に掲示し、職員が常に念頭に置き日々のケアに心掛けると共に、職員会議の中で理念の実践状況について確認すると共に、ユニット会議の中で毎月の目標を定め理念の実践につなげるよう努力している。今回の自己評価は理念の実践を振り返りながら、職員各々が作成し管理者がまとめたものである。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事である夏祭り、文化祭等に参加させている。また、避難訓練への参加、災害時の協力をお願いし交流を図っている。	地域行事への参加や、地域の参加を頂いた避難訓練、災害時の協力や、普段の近所の方々との交流の中で、利用者が地域と繋がりながら暮らしていけるよう努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に住む入居者の家族へ向けて年一回の家族交流会では、認知症についての講話を実施し、正しく理解していただく機会をつくっている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回会議を開催し、生活・活動状況について、委員の方と行政の方との話し合いができています。	一昨年の目標達成計画通り、2ヶ月1回開催されている。事業所の状況報告やアンケート、家族会等事業所の取り組みや活動状況について報告すると共に、委員の方より様々な意見を頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険の申請、認定調査時、運営推進会議等でケアの取組みを伝え、理解に努めている。	普段の業務や手続の際を利用し、取り組み等を説明し、相談や指導を受け易い関係作りに努めている。今後もより踏み込んだ要望等を表せる機会の構築を模索している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	禁止の対象となるような行為が必要な状況と思われる場合、一人では判断せず、複数の職員で話し合いをするようにしている。また、職員全員でモニタリングし、拘束せず生活していただくにはどうしたらよいか意見を出し合い、拘束をしないような対応に努めている。	職員は身体拘束の禁止となる具体的な行為を理解していると共に、安全の為に安易に考えるのではなく、職員間の話し合いの中で、利用者の引き起こす症状の原因を分析し、寄り添いながら見守りを重視し制止することなく、安全を確保し、身体拘束を行わないで過ごせる工夫を話し合い実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外出・外泊時はGHでの生活状況を説明し、帰居時は出かけ先での状況や変化を聞くようにしている。入浴・更衣時にあざ等がないか確認するようにしている。また、面会時に気をつけなければいけない方に関してはなるべく職員の目の届くところで面会していただけるように促している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を利用されている方がいるため、関わりの中から学ぶ機会がある。お便りを通じて、特有の制度についての情報を、家族の方にも発信している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明させていただいているが一度では理解につながらない。重要な点は面会の都度繰り返して説明するようにしている。主に管理者等が説明させていただいているため、今後は職員全員が契約に関する内容を把握し説明できるようになることが望ましい。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年一回家族へのアンケートを実施し、意見・要望を聞く機会をつくっている。ケアに関しては面会時または電話にて説明し、家族からの意見を反映できるようにしている。	管理者は、家族等の意見を引き出しやすい関係の構築に努力しており、アンケートや年2回行われる家族交流会等様々な機会を大切に、積極的に意見を表せる機会の確保に努めている。また職員もケアプランの説明時や普段の面会時に積極的に意見等を引き出せるよう、信頼関係の構築に努めている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者とは、年数回意見交流の機会を設けている。管理者とは職員の見解や提案を聞ける環境にあり反映できている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を反映し、勤務体制や勤務時間の変更を行っている。安定した運営により安心して働ける環境にある。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	多くの研修会に参加させていただく機会がある。参加者のみでなく、職員全員がスキルアップできるよう毎月研修報告を行っている。	管理者は人材育成が重要と考え、ケアの実際と力量を踏まえた研修計画を基にたくさんの外部研修に職員を派遣している。研修の内容は会議等で伝達されていると共に、事業所内の勉強会も充実し、職員を育てる環境が整備されている。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	年二回、他施設との交換実習に参加し、他施設の良い点を受け入れ、自施設を見直す機会になっている。また、同市内のGHと合同研修会を開催し、事例をもとに勉強会をしたりと交流する機会がある。	交換実習や市内のグループホームとの合同研修については、職員に目的意識を持たせ派遣し、他事業所との交流の中で、新しい視点を見出し、その取り組みを職員同士共有することでサービスの向上に繋げている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初は本人のペースにあわせ寄り添い、会話やしぐさの中から不安や思いを受け止め、一人きりにさせないようにし、職員が受け入れられるよう関係づくりをしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	職員の対応で解決できること、家族にしかできないことを伝え、家族の不安・要望を聞きながら職員との信頼関係を築いている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスや施設サービス、活用可能なサービスについても説明を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何をすることも利用者主体であることを忘れず、本人のできる部分に目を向け家事等に参加していただけるよう支援に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活上の様子を報告させていただく際に家族に協力いただきたい事伝え、負担のかからない様配慮するとともに支援している。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前交流のあった方との面会や、家族との外出時は行き慣れた場所に買い物に言ったり、知人に会いに行ったりすることがある。また、お正月・お盆の外出を促している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わりを観察し、職員が間に入ることでお互いの関係が築けるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等により退居された後も面会に行き、退居後の相談などに応じ、本人・家族の不安を少しでも取り除けるよう支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活する上での希望は基本直接本人に聞くようにしている。また、行動や表情などからも何を求めているのかくみ取るようにしている。	どのように暮らしたいかを理解する為のアプローチとして利用前の状況や習慣等、普段のケアの中で寄り添いながら会話や表情等、センター方式を活用し、利用者一人ひとりを理解することに努め、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前面談の際、自宅に伺い、本人・家族・サービス関係者・ケアマネージャーより情報を得るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のできること、できないことをよく把握しどの部分で介助が必要かを見極めて対応している。心身の状態については、何がきっかけで不安定になるのか等考え対応するようにしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を使用して、利用者の課題を見つけ、そのことについて本人・家族と相談するようにしている。職員間で会議を開き、意見交換をした上で介護計画を作成している。	利用者や家族等の意見を踏まえ、3ヶ月毎又は状況に応じて計画作成担当者の指揮の下、介護計画に沿った記録によりケア担当者がモニタリングや評価を行い計画を作成し、ユニット会議にかけその後全体会議に諮り、職員それぞれの意見アイデアを反映した介護計画の作成が行われている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った記録の方法を考え実行し、評価時わかりやすいようにしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化(小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行き慣れた場所、住み慣れた場所を把握し、職員・家族と共に出かける機会がある。地域の文化祭では本人の得意な裁縫を生かした作品を出展したりし、個人の力を発揮する機会がある。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	基本家族の方に付き添いをお願いしている。生活の様子や、体の状態については情報提供書を作成し、家族にも内容を説明した上でかかりつけ医に書面にて報告するようにしている。	本人家族の希望のかかりつけ医を継続して受診できるよう支援している。生活の様子や心身の状況を記した情報提供書により、事業所及び家族とかかりつけ医との情報の共有を図り、適切な医療を受けられるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>定期的な訪問の際、最近の様子を伝え、生活上注意すべき点などを聞き指導を受けている。</p>			
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時、家族から情報をいただくと共に、入院先に訪問し面会時に病院の方と直接話をさせていただいて状況の把握に努めている。</p>			
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>本人の意向も考慮しつつ、状況と照らし合わせ関わっている職員で今後も受け入れが可能かどうか話し合いをするようにしている。状態に変化あった際には細かい部分も家族に報告するようにしている。</p>	<p>利用開始時に重度化に関する事業所の指針を用いて利用者家族との方針の共有を図っている。また、状況の変化等必要に応じて、繰り返し利用者、家族等との話し合いも行われ重度化や終末期に向けた支援が行われている。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>利用者の急変に関しては、訪看来訪時、日常的に気をつけることなどを聞き、その際に今後起こりうる状況も考えるようにしている。年数回、避難訓練を行ったり感染症の演習をすることで実際起こったときに行動できるよう努めている。</p>			
35	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年数回、避難訓練を実施しており、内一回は地域の方も参加していただいている。隣接する老人保健施設・ケアハウスにも協力いただいている。</p>	<p>年5～6回の避難訓練を実施している。地域の方の協力や隣接する老人保健施設との協力関係も構築されている。避難訓練は、火災のみならず、水害や地震等様々な場合を想定し行われ、今年の震災後には、その経験を活かし今後の対応等について検討が行われている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相手の性格を理解し、どのように声かけすることで快く過ごしていただけるか。不快につながりそうなことに気をつけながら関わるようにしている。	その人らしい尊厳ある姿を大切に、一人ひとりの性格や能力を理解し、各々が持てる力を発揮できる機会の確保に努めている。また、日頃から利用者それぞれの言葉掛けに注意すると共に、職員間で注意しあいプライバシーを損ねない言葉掛けに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着たい服や食べたいもの、入浴したい時間など選択していただけるような働きかけをしている。急がせずに相手の返事を待ち、自己決定ができるよう選択肢を提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間、入浴の時間や長さ、休息の時間など希望や体調、その日の気分に応じ、本人のペースに合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝鏡を見て整容したり、お化粧したりできるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の嗜好を把握し、他者と違うメニューの提供などし必要に応じている。	栄養士による献立を基に3食共施設内のキッチンで調理している。週2回は利用者の意向を反映した献立となっており、また行事食も利用者の意向を取り入れて独自に作っている。また、利用者の能力や意向に応じて準備や調理片付けが職員と一緒に行われ、食事が楽しみになるよう支援されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事以外に摂取された水分に関してはチェック表を作成し把握に努めている。献立は栄養士が立てているためカロリー計算されたバランスのよい食事を提供できている。食事も利用者に合わせて食器を使用し残存機能を活かせるように工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯ブラシ・舌ブラシ・歯間ブラシを使って口腔ケア促している。初めは自分で磨いていたが、磨き残しがある場合は職員が仕上げするようにしている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の間隔を把握するため、排泄チェックを活用している。パターンをつかみ、汚してしまう前に誘導するようにしている。ズボンの上げ下ろし等に時間を要しても、自分でできることはしてもらえよう待つことを心がけている。	排泄チェック表を基に排泄パターンを把握し、羞恥心に配慮した誘導により、排泄の支援を行っている。能力の維持を重視しトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援に繋げている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の排泄状況や習慣を把握し、朝、コーヒー牛乳を提供したり、センナ茶で自然排便を促すようにしている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴する曜日は決めず、時間帯も利用者に聞いてから促すようにしている。安眠を促すために足浴・手浴をしている。毎日入りたいと希望される方は毎日入っていただくなど個々に合わせている。	原則入浴時間は特別に決めてはいない。入浴時間や長さも利用者の希望に応じて対応し、満足感のあるものになっている。また、温泉であり、温泉の香りや湯質を楽しむことができるだけでなく、りんご湯等変わり湯も楽しめるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	薬に頼らず日中はなるべく起きて活動できるようにしている。また、不安な思いや悩みは時間をかけて聞くようにしている。夜間は個々に応じて明かりの調節を行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬の目的や副作用については、服薬カード見て理解したり、薬剤師からの助言を頂いている。薬が変更した場合は状態に変化かないかどうかの観察を行い、主治医に報告するようにしている。処方内容と現物のチェックも行っている			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なこと・好きなことを知り、共に作業したり提供することで喜びを感じていただけるよう支援に努めている。セラピー犬を飼っているため犬に会いに行ったり隣のユニットの利用者の方と過ごすこともある。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や神社へ参拝に出かける機会がある。利用者より希望があった際は、職員付き添いのもと出かけられるようにしている。家族に協力していただき面会時ドライブや買い物に出かけることがある。	法人の広い敷地内には神社等もあり、日々の散歩等外気に触れる機会の確保は十分である。また、利用者の希望により映画館や外食、行きなれた場所への外出等様々な支援が行われている。家族の協力の下お墓参りや外出外泊などの支援も行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支払いは職員がしており、利用者が支払いする機会はほとんどない。手元にお金がないことで不安になる方もいらっしゃるため、家族と相談の上対応している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話があったり、手紙を頂くことがある。それに対して取次ぎをしたり、返事を書いたりすることはある。年賀状は毎年家族あてに送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースに季節のものを飾ったり行事の写真を掲示することで思い出していただけるように配慮している。夏場の暑い時期には日差しよけのすだれや植物によるカーテンを作り季節ならではの工夫をしている。	共用の居間は、リビングと茶の間があり、利用者が思い思いに時間を過ごせるスペースが確保されている。直射日光を遮る工夫も施され柔らかい日差しで心地よく過ごせる工夫もあった。季節感を感じさせる飾りつけもさりげなく、楽しい思い出の写真等の掲示など、居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	定期的に席替えなどを行っているんな方と話をしたりする機会を作っている。また、一人で過ごす時間も利用者の状況を見てこちらから促すこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に説明することで、使い慣れた物を持ちこまれている。馴染みがあるものの中で生活していただけている。	利用前の環境とのギャップ軽減に配慮し、馴染みの物や使い慣れたものの持ち込みも可能である。居室は利用者の思い思いの飾りつけ等居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースには手すりがあり、段差のない造りになっている。トイレには可動式の手すりを取り付け必要時使用できるようになっている。台所は広く造られており入居者と調理ができるようになっている。		